今……バスの中

《四県親善野球大会回顧録》

統計課　小松崎祝雄

今年も季節の流れに乗ってやってきた定期人事異動という波も，“時„の経過という自然作用で一応平静を取り戻し，我が統計課野球部員も，４月23日から今年度部活動の第一ハードルというべき“四県親善野球大会„（５月13日・埼玉県にて開催）へ向けての練習を開始した。

まずは，今回の人事異動により統計課ＯＢとなられた，偉大な先輩諸氏歓送と新メンバー披露という意味を込めて，４月28日（土曜日）田野水戸市民球場において，紅白戦という名で胸を借りることとなった。新メンバーといっても監督，エース等主力がぬけた穴は大きく，それを補充しつつ，その中で新メンバー編成をしなければならないという課題を抱えての，このような暗中模索的な状態を打破するのは，結局“練習以外にない„との信念（？）を持ちつつ，部員の積極的な参加を念じながら昼休みというわずかな時間を練習に費した。

見事，準優勝に輝いた本県選手団の面々

奇しくも，新旧両エースの投げ合い（？）という中にも終始なごやかな雰囲気の中，昼休み練習が功を奏したか？，あるいはＯＢ諸氏が新メンバー披露に花を添えてくれたのか？６対６という“華麗なる引分け„？という初陣の結果を生みだし，来たるべきエベントに向けて爽やかなスタートが切れ，残された日日への練習にも一段と意気も上がり弾みがついた。

試合の前々日，過酷？な練習も全体練習で流した汗をもって一応終了ということになったが，常に選手の先頭となり頑張ってきた助監督のＷ君が「練習はやったけどだいじょうぶかなあ」といった言葉は，我々野球部員一同の代弁として，練習で培った満足感の中にも一抹の不安が宿っていることを物語る一言であった。

さて，５月12日（土曜日）午後１時――課長をはじめとして総勢24名……にこやかな統計親善大使として，また戦う戦士として，埼玉県荒川河川敷へと出発した。とりあえず当日は，旧中仙道より右折し少し行った所に位置する公立学校共済組合の武蔵野会館に宿泊し，開催県である埼玉県の心づくしを受けながらも，明日への意気の高揚をはかりつつ鋭気を養った。

見上げるとどんより曇った当日，午前８時，降水確率は少ないとの天気予報を聞きながら，秋ヶ瀬橋を渡り一路会場へと向った。会場は，Ａ，Ｂコート２面あり，午前９時開会式（Ａコート）後，四県によるトーナメント方式で第１試合，第２試合（決勝戦・３位決定戦）と進行する予定である。“次期開催県が選手宣誓をする„という恒例にのっとり，開催県である埼玉県統計課長のあいさつ後，前年度優勝の栃木県から返還された優勝旗を凝視しながらの選手宣誓も無事役目を終え，いよいよＡコートにおいて「茨城県対埼玉県」戦，またＢコートで「栃木県対群馬県」戦が開始された。

……じゃんけんの結果，茨城県が先攻となり，Ｎ君が熱い声援を背に受けながら緊張の面持ちでトップバッターとしてバッターボックスへ向かって行った。結局この回，相手ピッチャーの緊張からくる制球難にも助けられ，２安打４四球により２点を先取し，各ナイン（実際にはエイト？）元気に各ポジションへ散っていった。ただ，公式戦初先発となったＭ君の緊張した重い足どりを残して……。しかしながら１安打１失策を含む１失点にとどめ，以後２，３回（当県が１点加点）４回とスコア３対１という投手戦の緊迫した試合模様となったが，５，６回に疲れの見えた相手ピッチャーに，毎日練習で培った力が集中爆発し，４四球８長短打を浴びせ，また投げてはＭ君の要所を締めるピッチングで13対１という結果的には予想外の圧勝で第１試合を飾り，第２試合（優勝決定戦）は同じく群馬県に圧勝した栃木県と優勝旗を賭けて雌雄を決することになった。前年も同一カード惜敗している当県にとって，ぜがひでも優勝旗を持ち帰り，来たるべき来年，他の三県が奪還を期して開催県となる我が茨城へ……。という思案

〈39頁へ続く〉